

平成29年1月4日の仕事始め式のあいさつです。

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

昨年の長久手市は、東洋経済の住みよさランキング2016で総合評価2位、快適度は全国1位という高い評価を受けたり、石破前地方創生担当大臣が、ワンコインサービスや地域共生ステーションの取組を視察されたりと、対外的に高い評価を頂きました。また、あるマスコミの方からは、『新聞報道は結果を書くことが多いのですが、長久手の記事は「〇〇している」という現在進行形の記事が多いです。長久手では面白いことが起きています。』とおっしゃっていただきました。

こうした評価や成果は、市役所を支えている職員の皆さん一人一人の力があってこそです。改めてお礼を申し上げたいと思います。今年も力を発揮していただき、一緒にまちづくりを行いたいと思いますので、協力をお願いしたいと思います。

さて、新年の抱負として、進めていかなければいけない取組についてお話ししたいのですが、その前に、なぜ取り組まなければいけないのか、改めてお話ししたいと思います。

## 時代が変わると、市役所も変わらなければならない

人口増加・高度経済成長の時代から人口減少・少子高齢化の時代に変わりました。時代が変われば、市役所も変わらなければいけません。市役所も効率ばかりでなく、これまで以上に地域のことに目を向ける必要があるでしょう。

年末に新潟県糸魚川市で大きな火災がありました。幸いなことに死者はゼロでした。もし、長久手で同じような災害が起こったらどうなるのでしょうか。長久手市は歴史があるまちだと言われていますが、人口が急増し、知らない人同士が集まっている今の長久手市では、市民同士が助け合う災害対応は難しいのではないかと思います。

こうしたことから本市に必要なことは、わずらわしくとも、地域の方々がお互い知り合い、関わり合い、助け合える関係を作ることと、人を助けることで、まちの中での自分の役割を持つことだと思います。そのためにまず、仕事をリタイアした人の居場所と役割を作ることから始めたいと思います。リタイアした人が社会参加し、まちづくりの当事者になってもらうことは、災害対応だけでなく、市民参加が進み、健康寿命が伸び、全ての人

が活躍する社会となり、とても大きな効果を生むでしょう。

今、話を聞いた皆さんは、理屈はそのとおりだが実現は難しい、理想論ではないかと思うかもしれません。

私もすぐに画期的なアイデアが出て、問題が簡単に解決するとは思っていません。結果よりも、理想を追い求める過程が大事であり、大勢の人が真剣に取り組み、一人では解決できずに悩み、周りや市民に相談することが大事だと思っています。

「地域福祉」と「社会福祉」という言葉があります。これまでは、専門家が法律やルールを作ってきた「社会福祉」の時代でしたが、これからは、市民がお互い助けあう「地域福祉」の時代になります。知らない人同士が集まっている今の長久手市で、地域福祉を実現することが難しいことはわかっていますが、あきらめずに挑戦すること、結果ではなく過程が重要だと思っています。

それでは、これから進めていく必要がある取組についてお話ししたいと思います。

## 市民主体の計画づくりを進める

今年から、次期総合計画の策定が本格的に始まります。この計画は新しいかたちになるかもしれませんので、総合計画という名称が適当なのかはまだわかりません。また、現在策定中の古戦場公園再整備基本計画、リコモテラスの整備や自治基本条例策定、スポーツ施設整備構想といった様々な事業があります。

こうした計画などは、市役所のための計画ではありません。市民のための計画です。市民のための計画は、市民生活に関係することなので、市民が作る必要があります。今は市民参加の定義も定まっていませんので、今後具体的な数値目標なども検討しなければならないでしょう。また、計画づくりの途中経過の報告も必要だと考えています。広報やホームページなど活用し、積極的に公開していくことで、市民参加の成果を目に見える形にしていく必要があると考えています。

## 縦割り解消・横のつながりを強化する

今、一つの家庭内で介護・貧困・虐待など、実に様々な課題や問題が同時に起こっています。こうした家庭で起きている課題や問題に対して、市役所は上手く機能し対応できて

いないように思います。それは、市役所が効率的・専門的な対応に主眼を置き、あらゆる課題について窓口が細分化されたため、情報などの共有が円滑にできてないからではないでしょうか。いわゆる縦割りの弊害です。市民に寄り添って課題や問題を解決するためには、縦割りを解消し、横のつながりを強化し、問題を包括的に捉えて対応する仕組みが必要となります。こうした取組を進めていきたいと考えています。

## 現場へ出る

また、市長になって5年たちましたが、いまだに新しいことに出会い、勉強させてもらっています。もっと問題が起きている現場を知らなければいけないと思っています。市長室で相談を受けたり決裁をしたりするだけでなく、どんどん市長室を出て、こちらから各課や現場に出かけていく1年にしたいと思っています。現場にはパソコンやスマートフォンでは手に入らない情報があります。皆さんも是非現場へ出てほしいと思っています。

こうしたことに取り組んでいくには、今年も職員の皆さんの力が欠かせません。これまで取り組んできたあいさつ運動についても、更に進めていきたいと思っています。今年も一緒に頑張りましょう。

# 福祉＝暮らしが変わる ～専門家主体から地域住民主体へ～

	構造	解決方法の傾向	特色	主体
地域福祉	手作り (非効率) (時間がかかる)	その人に合わせて、できることを考える	切り捨てるものがない (融通無碍)	地域住民主体 (達成感)
社会福祉制度	制度 (効率的) (時間がかからない)	法律で解決する	切り捨てるものがある (あてはめ)	専門家主体 (義務感)